

鍋、釜ははじめ身の回りの道具類は、年を経るうちに魂が宿るようになり、乱暴に扱われていると、いつか人間にいたずらをするようになる。こんな昔話を、子供のころ祖母から聞かされたことがある。

先日、扇風機を買い換えた。

古い扇風機は、私が就職して、アパートで独り住まいを始めたころに買ったものだから、何十年も大昔のものである。なぜこれほど長持ちしたかというと、昼間は私が仕事で留守にしているためほとんど使われず、そのうちエアコンが出回ってきて、そちらに乗り換えられてしまった、という事情が大きい。

扇風機がひんぱんに使われるようになったのは、むしろ、いまのマンションに越してきたここ数年のことである。このマンションでは、洗濯物の外干しはなるべく控えるよう、と言われているので、室内で、扇風機の風で洗濯物を乾かすことにした。以来、夏冬関係なく一年中、扇風機を出しっ放しにして、洗濯のたびに回している。

そのせいだろうか。しばらく前から、回しているうちにいつの間にか止まっていたり、揺さぶると動き出したりするようになった。そこで、どうなったのだろうと、最寄りの電気店に相談したところ、そうなら発火のおそれがあり、危険だから、即刻使用をやめるように、と言われた。扇風機を買い換えたのは、そういう次第である。

新しい扇風機が届き、古いほうは廃棄処分することにした。新しいものと並べると古い扇風機はいかにも不格好で重たく、風量の切り換え段数も少なく、自動運転・自動停止を設定できるタイマーもついていない。新品より劣っているのは明らかだが、いざ捨てるとなると、どうにも哀憐の情がわいてきて捨てるにくなってしまった。

ふっと祖母の昔話を思い出した。そうか、何十年もいっしょに暮らしているうちに、この扇風機にも魂が宿ったのかもしれない。同じ捨てるなら、せめて感謝の気持をこめてきれいに磨き立てて捨てよう。そう思って、半日がかりで扇風機の掃除をしてやったことであった。